

## 主題追究型の授業

主題追究型授業は、児童が主題を自分の問題として捉え、資料を基に主題を追究し、その道徳的価値について考えていくことで、自分の生き方をよりよくしていくとする思いや願いを深める授業である。これを実現するために、「つかむ」「ふかめる」「つながる」の各段階において主題を明確に示しながら授業を展開する。

### 【授業スタイル】

道徳的な判断力・心情・実践意欲と態度の育成

<p><b>1. つかむ</b></p> <p>主題についての現在の受け止め 主題を追究するための問題意識 現在の自分の道徳的価値</p>	<p><b>2. ふかめる</b></p> <p>道徳的価値についての 考察・分析・実践・再思考 多面的・多角的思考との出会い</p>	<p><b>3. つながる</b></p> <p>学習の振り返り 自分の道徳的価値の変容 仲間・他教科・実生活への指針</p>
---	---	---

### 研究の柱Ⅰ：見通しと振り返りの工夫

#### 内容①-1 「つかむ」場面の工夫

##### (例1)〇×クイズで意欲を高める

児童の気持ちを高めるだけでなく、主題の現段階での受け止めを把握。

##### (例2)アンケートで実態を把握

フォームなどを活用し、主題に対する実態をグラフなどに表す。

〇×クイズをやるよ!

えを見て  
よいとおもえば〇  
わるいとおもえば×で  
こたえましょう。

ろうかを  
はしる

- ・学ぶ必然性や切実感
- ・やる気を引き出す仕掛け

##### (例1)思考や心情を表すツールの活用

- ・気持ちバロメーター
- ・心情曲線
- ・意思表示カード

##### 気持ちバロメーターによる思考の視覚化

児童は心情の程度を比較したり、変更したりできる。

授業の導入場面「つかむ」段階では、児童が意欲的に主題に向き合うことができるような工夫を授業の導入段階において取り入れたい。さらに、「つながる」の場面では、振り返りの方法を工夫し、学んだことをいかに他教科や実生活へつなげていけるか、児童に意識させていく。「つかむ」場面と「つながる」場面は、対応し、一貫性をもたせる。そうすることで、授業における主題が貫かれると考える。

### 研究の柱Ⅱ：かかわり合いを活性化させるしかけ

#### 内容② 本音を引き出すための手立て

児童が主題を自分の問題として捉え、その道徳的価値について考えていくために、児童の本音を引き出し、**お互いの考えを議論し合ったり、比較したりできる場を設定**していく。そのために、体験的な活動や思考ツールなどを取り入れ、どんな立場で話したり聞いたりするべきかの児童がもつべき視点を意識させたい。

##### (例2)体験的活動の導入

- ・役割演技(インタビュー形式を含む)・シミュレーション(模擬的に体験)・動作化

##### 役割演技での交流 役割交代

登場人物になりきり、**即興**で心情を述べ合う。対応する役割を交代し、視点(見方)を変えさせることにより、多面的・多角的思考を促す。主題へのつなげ方を考えて、役割演技が効果的な場面で用いる。

##### (例3)問い返し

- ・児童から本音を引き出すため、児童の発言に合わせて**適宜**教師による問い返しを行う。

##### インタビュー形式での交流

聞き手(教師)が主題に迫る発問を準備。児童は登場人物になりきり、**即興**で答える。登場人物の気持ちや児童の本音を引き出す。また、観覧者(その他の児童)が何を見るべきか、予め伝えている。

### 内容①-2 振り返りの工夫

#### (例)「つながる」場面で自己を見つめる

### 研究の柱Ⅲ：個の学びの充実 副題「ねばり強く」

#### 内容③ 自己を見つめる場の設定

自己の生き方についての考えを深めるためには、学習の中で児童が仲間、他教科・他領域、生活とのつながりを実感する必要がある。つながりを実感することで、児童は主題を自分のこととして捉え、主体的に考え始めると考える。どのような場や相手とのつながりを意識させていくのかを明確にした授業を目指していく。そのためにも、児童が**自分自身と向き合う時間や場を保障**することも大切だと考える。

#### (例)「ふかめる」場面で自己を見つめる

##### 〇板書の工夫やICTの活用

登場人物の心の様子がひと目でわかりやすいような図や、児童の本音の意見が書いてあるなど、**考えの比較や振り返りがしやすい板書**を心がける。

普段の生活の様子や資料を教師が提示し、自分事として振り返る。